

## 名誉町民

杉山 幹夫さん

松波 英一さん

笠松町の発展のため長きにわたりご尽力、ご支援をいただいた杉山 幹夫さんと松波 英一さんが、12月7日に開会された第4回笠松町議会定例会において名誉町民の選定同意を得て、当町で3人目、4人目となる名誉町民に選ばれました。



杉山 幹夫さん

岐阜市在住  
(本籍:笠松町下本町)

1927年生まれ



松波 英一さん

笠松町泉町在住

1930年生まれ

杉山さんは、笠松町で生まれ育ち、昭和46年に(株)岐阜日日新聞社、(株)岐阜放送代表取締役社長に、平成26年には(株)岐阜新聞社名誉会長に就任され、岐阜県のメディアを担う存在として尽力されました。

特に、新聞、テレビ、ラジオのメディア媒体を通して、知りたい情報や届けたい情報、笠松町の魅力を町内外に伝え、町の情報発信に多大な貢献をされました。

さらに、平成21年に町に寄贈された杉山邸(下本町)は、建築当時(明治25年)の繁栄を今に伝える歴史ある建造物として、平成18年に国の登録有形文化財に登録されました。現在は住民協働により笠松を語り継ぐ会が情報発信や人の集まる「まちの駅」として、また、歴史と文化の町・笠松の魅力を発信する拠点として運営しており、地域文化の振興に大きく寄与されました。

松波さんは、昭和63年に松波総合病院病院長、松波総合病院老人保健施設施設長に、平成13年には松波総合病院名誉院長に就任され、岐阜県の救急医療、高度先進医療の推進に多大な貢献をされました。

さらに、地域医療に貢献している羽島郡医師会会長を昭和63年から平成2年までと平成9年から平成19年まで、長きにわたり務められ、平成12年の介護保険制度開始以来、町民が安心して暮らせるような町づくりとして医療・介護・保健など当町における福祉の礎となっています。

また、当町では県内の自治体では最初に高齢者を対象とした新型コロナウイルスワクチンの集団接種が開始され、町民のコロナへの不安を緩和すると共に接種体制の確保など、地域の保健衛生の振興に大きく貢献されました。